



附属小のマスコット・キャラクターが決まりました！平和で一人一人が輝く学校という願いが込められています！

令和5年度 附属小学校だより

スマイル³ふぞく



第2号 令和5年5月31日（水） 校長 古野 祐一

全力前進のスマイル運動会！

5月21日（日）の運動会は諸々の制限が無くなり、多くの皆様から応援を受け、運動会テーマ「全力前進，最高のスマイル，創りだせ」にふさわしい子供たちの躍動ぶりでした。「仲間と共に世界一の運動会を創りたい」という子どもたちの情熱を、競技の姿で見ただけたことを嬉しく思います。これも保護者の皆様が、全ての北斗の子へ、声をからし応援いただいたお陰と感謝しております。

A組・1・3・5年民謡表現の「エイサー」・「花笠」・「よさこい」・「ソーラン」，2・4・6年の組体操を取り入れた創作表現と，6年間をかけて高まっていく表現種目の新しい組み合わせはいかがだったでしょうか。

「終わりが始まり」と言います。次年度の運動会に向けた取り組みは，日々の体育授業で様々な体作りに取り組むところから早速始まっています。1年後，更に高まった姿が見せられるよう，励んでまいります。

教育環境が益々整っていきます！

1年生教室前の中庭改修工事が5月29日（月）から始まりました。「天然芝生の中庭」に生まれ変わります。これは，以前，附属小育友会長も務められました（株）チョープロ代表取締役の荒木様からの提案によるものです。V・ファーレン長崎のサッカー練習場閉鎖に伴い，グラウンドの天然芝をいただけることになりました。古い芝生や雑草を取り去り，新しい芝を植え付けるための工事作業を見ていた1年生が，「芝生で寝転がりたい！」と，出来上りを心待ちにしていました。また一つ，附属名所が増える日が待ち遠しいです。

その他にも，育友会の皆様のお力添えで着手した北斗の丘再生プロジェクトも着実に進んでいます。古い遊具の撤去完了。人工芝やロープの張り替え完了。新遊具の4連ブランコ設置工事目前。ブランコ設置に伴った，走り幅跳び用砂場の新設検討中。

体育館も中学校に続き，来年1月下旬完成を目途に，改修することになりました。7月から工事を進めていく予定です。北斗の学び舎が充実していく環境整備に御期待ください。



3年生の新しい表現「よさこい」。



5年生の新しい表現「ソーラン」。



6年生の組み体操を入れた創作表現。



1年生教室前の中庭を芝生化する工事開始。

※裏面に続きます！

北斗の感動

先月の話です。3年生の女の子が職員室の私のところを訪ねてきました。「きょうとう先生、このお花をA先生のつくえに おいてください。」手には、ヤクルトの容器に入った一輪花を持っていました。前年度の担任であったA教諭が、体調を崩し声が出にくくなったことを心配し、校庭で花を摘み届けに来てくれたのです。このエピソードからA教諭と女の子の良好な関係が伺えます。きっと昨年度、A教諭から応援され幸せをもらったからこそ、今度は自分が相手に何ができるかを考えたのでしょう。学校には、このような小さな感動が溢れています。

一輪の花に込めた思い

人はどのようなときに感動するのでしょうか。誰かの優しさにふれたとき。できなかったことができるようになったとき。大切にされているなど感じたとき。子どもの一生懸命な挑戦にふれたとき。想定を超えたとき人は感動します。その感動が人を動かします。先述した女の子のような純粋に人を想う姿も感動を呼び、A教諭の力となりました。

今年度のスマイル附属のテーマは「感動」です。私のコーナーでは、附属小に溢れる、子ども、教職員、そして保護者・地域の皆様の感動エピソードをお伝えしていきます。

教頭 橋田 晶拓

未来で輝く北斗の子

ドラマから見える時代の変化

ここ近年のサスペンス系ドラマを見ると、過去の作品とは構図が変わってきているように感じます。一言で言うと、「事件を起こした犯人は、初めから分かっているようになった」ということです。

私が子どもの頃に見ていた作品は、犯人の正体という「答え」が、話の展開と共に少しずつ見えてきて、終末場面(崖の上などが有名ですね)で明らかになる、という展開でした。答えが最後に分かる仕組みです。

しかし近年では、犯行シーンから始まる作品が多く、犯人(答え)は初めから分かっています。そして主役が一体どのようにして犯人を特定するのか、その「過程」を楽しむ仕組みになっているのです。

実は授業でも、同じような変化が起こっています。「何が分かったか、何を覚えたか」と最後に答えや知識を求めるための学習だけでなく、「もてる知識や得た答えをどう使うか」という活動を通して思考力や判断力の向上に重点を置いた授業の取組を行っています。

このコーナーでは、未来社会をたくましく生き抜く力を育む取組についてお伝えいたします。

主幹教諭 才木 崇史

教えから学びへ

目当て

授業開始、5分程度で、1時間の「目当て」を設定します。「目当て」とは、その字の通り、「目を当てたところ…目指す目標」です。これまで、一斉指導の中で、子どもの「したい」を基にしなが、全員共通の目当てを設定してきました。一方、既習内容の定着度や理解度等が多様な子どもの集まる学級集団において、一律の目当てを設定することは、子どもの豊かな学び方を妨げる可能性があるのでは…とも考えるようになりました。例えば、今6年生が学習している「分数÷分数」の1時間。子どもは次のような課題意識をもちながら、学びを進めていきます。

問題場面 $\frac{2}{3}$ dLで $\frac{4}{5}$ mlぬれるペンキがあります。1dLでは、何mlぬれますか。

- 1 式は何になるのだろうか? → 数直線図をかいてみよう。
- 2 $\frac{4}{5} \div \frac{2}{3}$ 答えは何になるだろうか? → 図で表すと $\frac{1}{10}$ になるようだ。
- 3 計算ではどうやって求めればいいのか? $\frac{2}{3}$ で割るとはどういう意味?
・わり算の性質を使う?
・かけ算のように $\frac{4}{5} \times \frac{3}{2}$ でもいい?
- 4 この方法は数が変わっても使えるの?

このように、子どもが抱く疑問も、立ち止まる箇所も実に多様です。子ども一人一人の、その時々が目当てに十分に立ち向かう機会をつくることで、個に応じた学びにつながると考えます。

このコーナーでは、「教えから学びへ」をテーマに、私たちの目指す子どもの学びの姿についてお伝えしていきます。

教務主任 松尾 勇哉